Paradigm®

PERSONA

オーナーズマニュアル

ペルソナ 9H は「ハイブリッドスピーカー」です。内部にはウーファーシステムを増幅するための電源部が設けられており、AC 電源に接続する必要があるため、電源ケーブルが付属しています。ケーブルを接続する際には、スピーカーの背面パネルにある AC 電源コネクターを壁面の AC 電源コンセントにしっかりと差し込んでください。

警告:電源ケーブルが AC 電源に接続された状態で、スピーカー側の電源ケーブルを脱着しないでください。また、ケーブルが AC 電源に接続された状態で、ソケット側をスピーカーに接続しないまま放置するのもお止めください。

ARC
ANTHEM
ROOM CORRECTION

Paradigm（パラダイム）および Persona（ペルソナ）は、Paradigm Electronics Inc. の登録商標です。ART（Active Ridge Technology）、PPA（Perforated Phase Alignment）、および ARC（アンセム・ルーム・コレクション）は、Paradigm Electronics Inc. の商標です。Truextent Beryllium は、Materion（マテリオン社）の登録商標です。著作権は Paradigm Electronics Inc. に属します。無断複写・転載を禁じます。

仕様は改良のため変更される場合があります。

paradigm.com

MAN0144 10.11.17

目次

開梱について：ペルソナ 9H 1

**開梱について：ペルソナ 7F、5F、3F、
およびペルソナ C 2**

アクセサリー 3

ご使用上のヒント 4

エージング 4

クリーニング 4

スピーカーの損傷を防ぐ 4

アンプの歪み：第 1 の元凶 4

パワーの大きなアンプほど安全性は高い 4

ボリューム操作 4

限界を考慮する 5

適度なアンプ出力を考慮する 5

音楽再生の室内環境 5

**ブックシェルフ / センタースピーカーへの
バンパーパッドの取り付け 6**

配置：左右フロントスピーカー 7

正確な音色 8

バランスのとれた低音 9

最適な音像定位 10

配置：センタースピーカー 11

スピーカーの接続 12

ゲージの要件 12

すべてのスピーカーを対象とした標準的な接続 13

バイワイヤー接続 14

バイアンプ接続 15

ホリゾンタルバイアンプ接続 16

バーチカルバイアンプ接続 16

ペルソナ 9H のコントロール部 17

ファインチューニング 18

**アンセム・ルーム・コレクション（ARC ™）
（ペルソナ 9H のみ） 19**

基本的なトラブルシューティング 24

5 年間の制限付き保証 25

重要な安全の手引き

1. このマニュアルを必ず読んでください。
2. このマニュアルは保管してください。
3. 使用上のすべての注意に従ってください。
4. マニュアル内のすべての指示に従ってください。
5. 本装置を水の近くで使用しないでください。
6. 掃除の際は乾いた布のみをお使いください。
7. 通気口はふさがないでください。メーカーの指示に従って設置してください。
8. 放熱器、セントラルヒーティングのレジスター、ストーブ、または熱を発生するその他の装置（アンプを含む）のような熱源の近くには設置しないでください。
9. 電源ケーブルは、特にプラグ付近、電源タップ付近、および装置との接続部付近で挟んだり、その上を歩いたりすることのないよう保護してください。
10. メーカーが指定したアタッチメント（取り付け具）/ アクセサリーのみを使用してください。
11. スピーカー用の台車、スタンド、三脚、ブラケット、台は、メーカー指定のものか装置と一緒に販売されたもののみを使用してください。台車を使用する際には、装置を台車に乗せて移動するときに転倒してけがをしないよう注意してください。
12. 雷の発生時や本装置を長期間使用しないときは、電源ケーブルを抜いてください。
13. 修理や点検については必ず正規サービスセンター に連絡してください。電源ケーブルやプラグが損傷した場合、装置内に液体や物がこぼれたり入り込んだりした場合、装置が雨や湿気にさらされた場合、正常に動作しなくなった場合、または装置を落下させた場合など、装置が何らかの損傷を負った際には修理・点検が必要になります。

安全に関する重要な情報

矢印の付いた稲妻が白抜きされた正三角形のイラストは、製品の筐体内に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電のリスクがあることを示しています。

感嘆符が白抜きされた正三角形のイラストは、操作やメンテナンス（修理・点検）に関する重要な説明が、機器に付属している文書内にあることを示しています。

警告：正規代理店により最初に販売された国以外でパラダイム製品を使用しないでください。国によって電圧の仕様が異なります。異なる電圧で使用した場合、修理に多額の費用が生じる損傷につながる恐れがあります。パラダイム製品は、販売先の国に応じた電圧設定で正規代理店に出荷されています。正規代理店のリストについては、www.paradigm.com にアクセスしてご確認いただくか、info@paradigm.com までメールでお問い合わせください。

警告

感電の恐れあり
開けないでください

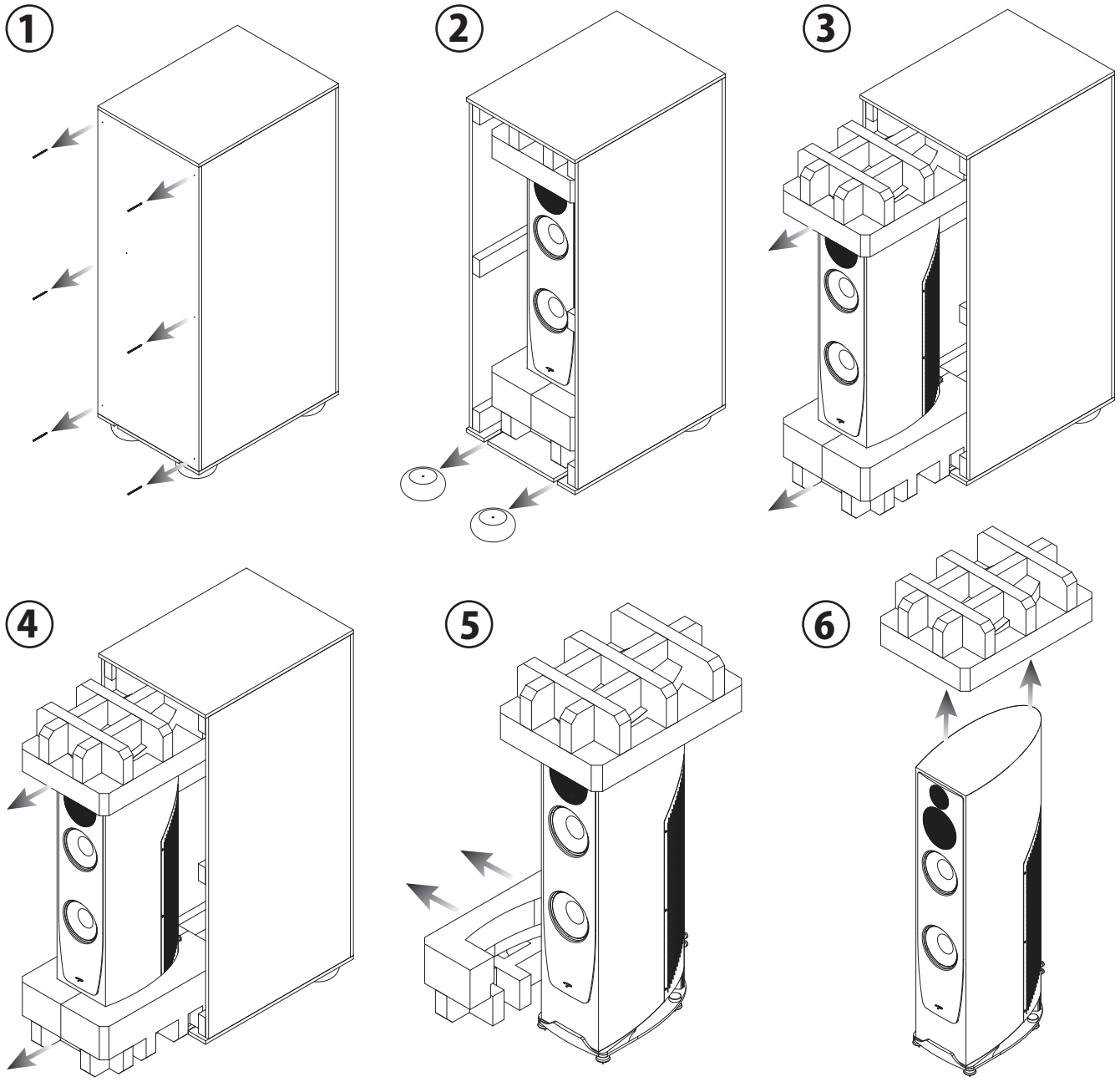
警告：火災や感電のリスクを減らすため、本装置を雨や湿気にさらしたり、液体が入った物を近くに置いたりしないでください（例：花瓶などは本装置の上に置かないでください）。

- 本装置を AC 電源から完全に切り離すには、電源ケーブルのプラグを AC 電源コンセントから抜いてください。
- 電源ケーブルのプラグは手の届く範囲に置き、いつでも接続できる状態にしておいてください。

開梱について：ペルソナ 9H

重要：作業を始める前に、以下の手順を確認してください。

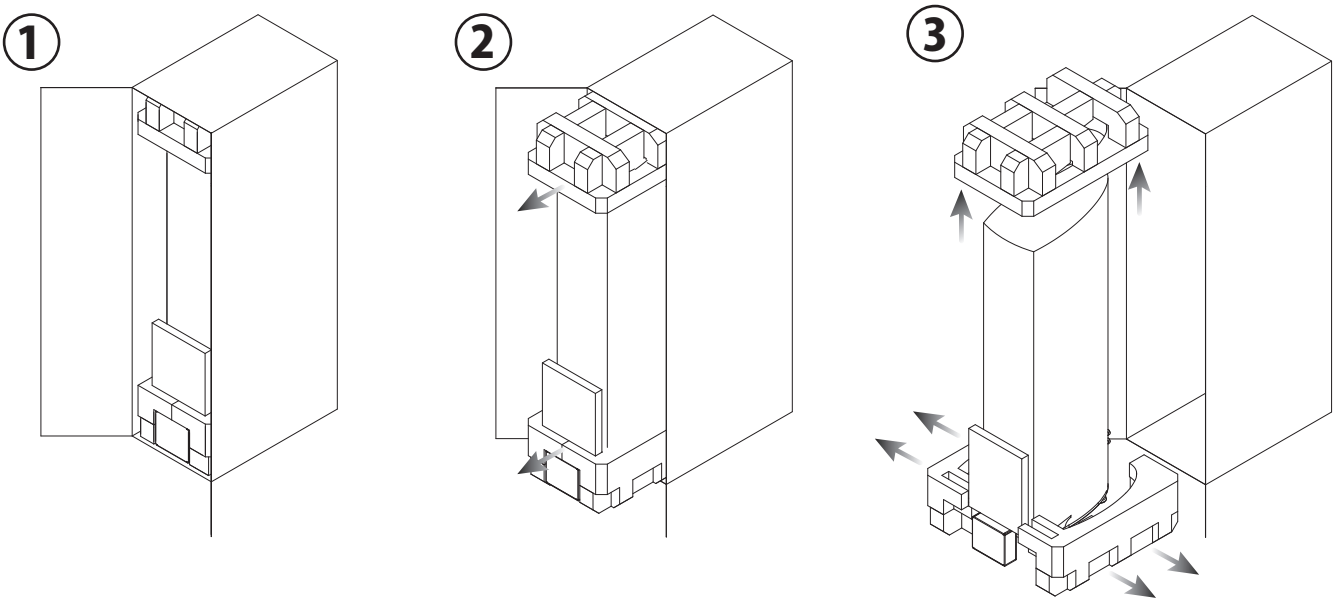
重要:梱包箱からスピーカーを取り出す際には、ベルトのバックルや指輪、その他の装飾具がスピーカーの塗装面を傷つけないよう注意してください。



開梱について：ペルソナ 7F、ペルソナ 5F、ペルソナ 3F

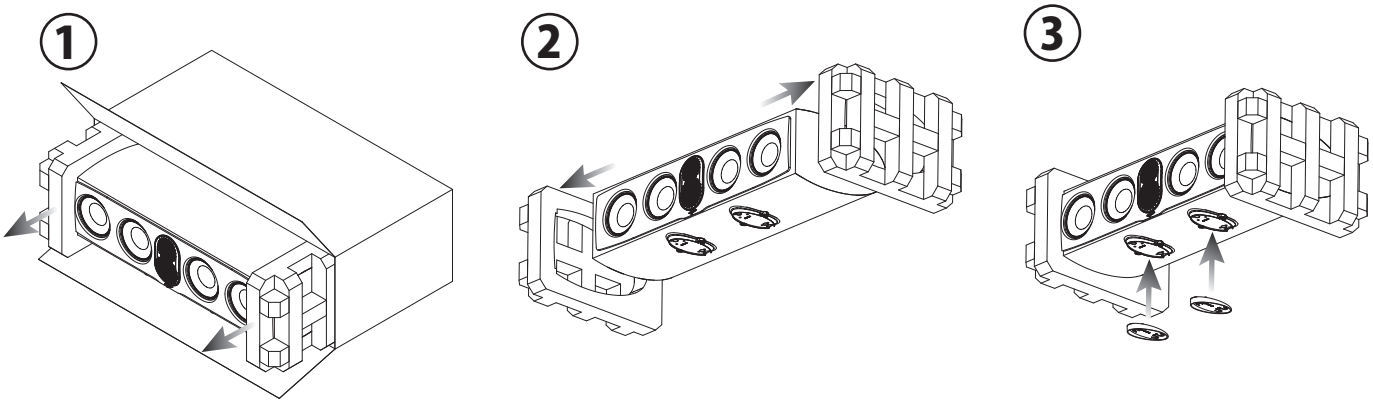
重要：作業を始める前に、以下の手順を確認してください。

重要:梱包箱からスピーカーを取り出す際には、ベルトのバックルや指輪、その他の装飾具がスピーカーの塗装面を傷つけないよう注意してください。



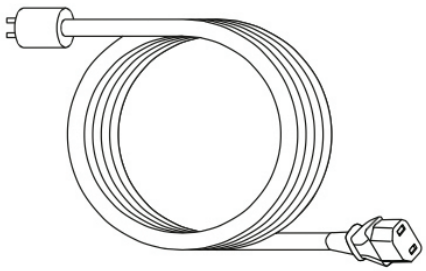
開梱について：ペルソナ C

テーブル面に設置する前に、2 つの台座 を取り付けてください。

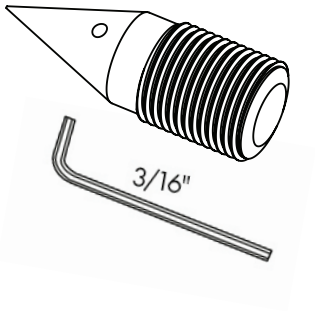


アクセサリー

電源ケーブル（ペルソナ 9H のみ）

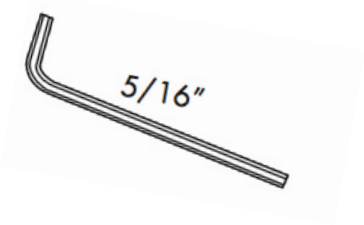


4 ×カーペット用スパイクおよび六角レンチ
9H、7F、5F、3F のみ



4 x ゴムパッド付メタルフィート（本体装着済）

1 ×六角レンチ（ゴムパッド付メタルフィート用）
9H、7F、5F、3F のみ



ペルソナの
世界へようこそ

ペルソナ C　ペルソナ B　ペルソナ 5F　ペルソナ 9H　ペルソナ 7F　ペルソナ 3F　ペルソナ SUB

ご使用上のヒント

エージング

パラダイムのペルソナスピーカーは、箱から出してすぐの状態でも素晴らしい音を奏でますが、「エージング」をすることでよりいっそう音質が向上します。厳密な音楽鑑賞の前に、数時間音楽を再生して装置の慣らし運転をしてください。

注：スピーカーを運んだり寒い場所に保管したりしてスピーカー本体の温度が下がった場合は、室温に上がるまで待ってから使用してください。

クリーニング

ペルソナスピーカーには耐久性に優れたプレミアム塗装が施されています。汚れを拭き取る際には乾いた 柔らかい布を使用してください。強力なクリーナーや研磨剤が入ったクリーナーの使用はお控えください。スピーカーシステムは、どの部分も濡らさないようにしてください。スピーカーの上に濡れた物（コップや鉢植えの植物など）を置かないでください。わずかでも水が浸透した場合、スピーカーのエンクロージャーに取り返しのつかない汚れや損傷が生じる恐れがあります。

スピーカーの損傷を防ぐ

パラダイムのペルソナスピーカーは能率が高いため、アンプの出力がそれほど高くない場合でも、大きな音量レベルまでドライブ可能です。その一方で、出力の大きいパワフルなアンプにも対応しています。スピーカーの損傷を防ぐため、接続の前には以下のガイドラインをお読みください。

アンプの歪み：第 1 の元凶

アンプの歪みはスピーカー損傷の主な原因です。音量を大きくした場合、アンプにクリーンな電気が行き渡らなくなり、さらにボリュームを上げると信号に歪みが生じるようになります。この信号の歪みは、どのようなメーカーのスピーカーをも、短期間で損傷させる原因となります（推奨のアンプについては、パラダイム製品の正規取扱店までお問い合わせください）。

パワーの大きなアンプほど安全性は高い

アンプを選択する際には、常にスピーカーの定格入力よりも定格出力の大きいアンプを選ぶようにしてください。50 ワットのスピーカーに左右各チャンネルが 100 ワットのアンプを使用した場合、アンプは十分なヘッドルームを確保できるため、歪みのない信号を提供することができます。逆に、50 ワットのスピーカーに左右各チャンネルが 40 ワットのアンプを使用した場合、アンプのヘッドルームは制限されます。この場合、アンプはすぐに限界を超えて信号が歪むようになり、結果的にそれがスピーカーの損傷を招くことになります。

音量コントロール

レシーバー / プリアンプの音量コントロールについては勘違いされる場合がありますが、音量は聴取レベルを調整するだけであり、「出力」を調整するものではありません。任意の音量設定時におけるアンプの実際の電力使用量は、再生中の音楽の性質によってのみ決まります。

音量が任意の設定値にあるとき、再生中の音楽の静かな部分の方が音の大きな部分よりも電力使用量は少なくなります。典型的なポップやロック、ジャズ、または大規模なクラシック音楽を再生する場合、多くのレシーバー / アンプでは、音量が 11 時から 1 時の間でしばしば定格出力に到達します（ベース、トレブル、ラウドネスコントロール未使用の場合です。これらを使用した場合、さらにボリュームが低くても定格出力に到達することがあります）。

スピーカーの損傷を防ぐ（続き）

定格出力を超えて動作させた場合、歪みはどのようなアンプでも生じることは頭に入れておいてください。この歪みが、すべてのスピーカーを損傷させる原因となるため注意が必要です。大音量で音楽を聴く場合は歪みが始まる境界に注意し、スピーカーからの音に異常を感じたら音量を下げるようにしてください。さもないと、スピーカーやアンプが損傷する恐れがあります。**この種の損傷は、不適切な使用によるものと見なされ保証の対象外となります。**より大きな音で聴きたい場合は、より出力の大きいアンプをお求めください。

限界を考慮する

アンプは出力が大きいほど安全ですが、ある境界を超えるとスピーカーが処理できる以上のパワーになってしまいます。そうなると、アンプの出力がスピーカーの許容値を超え、損傷を招くことになるので注意が必要です。大音量時にはベース、トレブルの設定を 0 以上にせず、ラウドネス / コンター / ベース EQ ボタンはオフにするようにしてください（そうしない場合、より低い音量設定でも定格出力に達することがあります）。

適度なアンプ出力を考慮する

ご購入いただいたパラダイムのペルソナスピーカーには、最小および最大入力のおおよその範囲が目安として提供されています。アンプを選択される際には、スピーカーの定格入力範囲を超えるアンプをお勧めいたします。出力が大きいアンプほど余裕が生まれ、良好な音質へと反映されます。ただし、スピーカーの損傷を防ぐためにも、スピーカーは定格入力範囲内で使用するよう心がけてください（ウーファーコーンが過度に振動することのない音量で音楽再生をお楽しみください）。

音楽再生の室内環境

パラダイムのペルソナスピーカーは、幅広い室内環境で優れたハイエンドサウンドを提供するように設計されています。ただし、ご注意いただきたいのは、リスニングルームの構造や寸法、室内の調度品などのすべてが、最終的な音質に重要な影響を及ぼすということです。どのようなスピーカーシステムであっても、音楽再生をするリスニングルームの特徴が否応なしに反映されます。また、適切なスピーカーの配置を念入りに調整すればするほど、音楽鑑賞がより楽しくなるはずです。リスニングルームについて考慮する際には、以下のガイドラインに留意してみてください。

- 中高域は、室内の柔らかい調度品（カーテン、カーペット、ソファ、壁紙など）の量に影響されます。そうした調度品が多すぎる場合、音の輪郭がややぼやける傾向があります。一方、同じ部屋でもそうした調度品がまったくないと、音は全体的にブライトになる傾向があります。一般的な生活環境で見られる柔らかい調度品を適度に配置することで、バランスのとれた音響特性をスピーカーから得ることができるようになります。
- コンクリートの床や壁は、低域の定在波の問題を悪化させる傾向があり好ましいとはいえません。
- 高さ、幅、奥行きが似通った部屋は、低域定在波の問題が顕著に現れる可能性があるため、避けた方が無難でしょう。この問題は、音のクリアさを低下させる可能性があります。部屋の選択肢が他にない場合は、音響の問題を最小限に抑えるためにスピーカーの配置をいろいろと調整してみてください。

ブックシェルフ / センタースピーカーへのバンパーパッドの取り付け

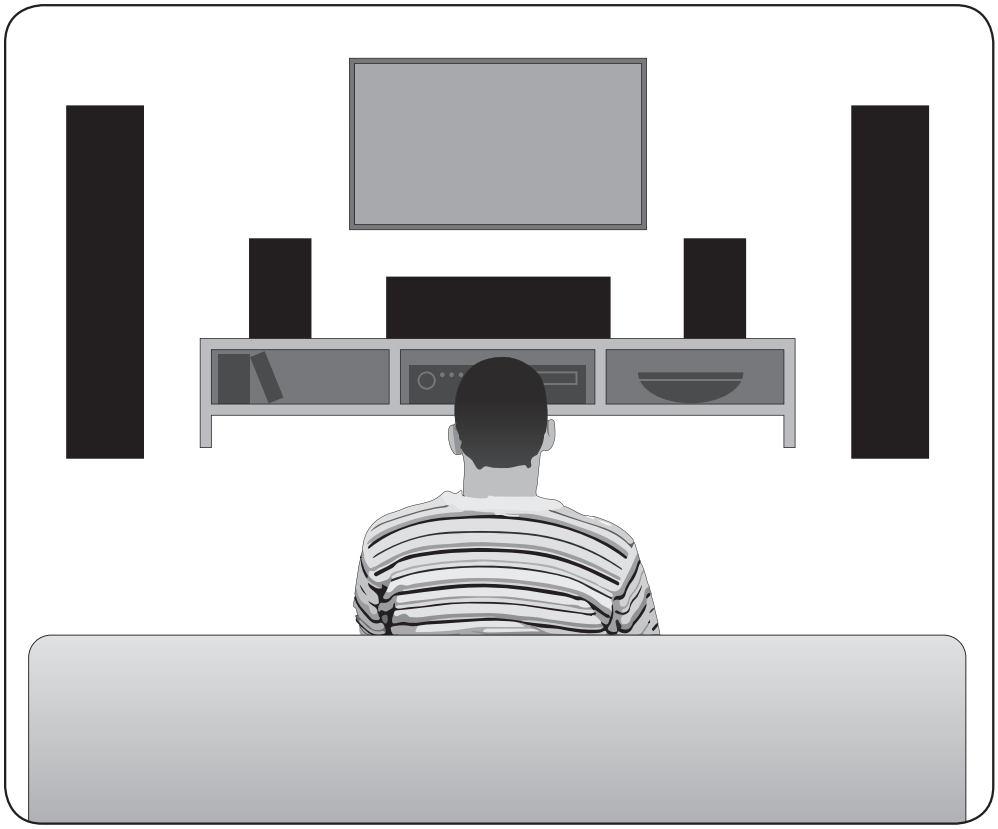
重要:スピーカーの表面が傷つくのを防ぐため、柔らかい表面（ラグ、毛布など）にスピーカーの上面を置いてから、底面の各コーナーにバンパーパッドを取り付けてください。

ブックシェルフおよびセンタースピーカー

パラダイムのペルソナ B ブックシェルフ・スピーカーやペルソナ C センターチャンネル・スピーカーを棚などの平らな面に置く場合は、粘着シート付きのバンパーパッド（付属品）をスピーカー底面の各コーナーに貼り付けてください。固い表面からスピーカーを離すことで、全体的な音質が向上します。

スピーカーの配置：左右フロントスピーカー

パラダイムのペルソナフロントスピーカーは、リスニングルーム全体に届ける音を損なうことなく、柔軟な配置が可能となるように設計されています。しかしながら、最大限のパフォーマンスを引き出すために、次ページ以降に記載された配置に関するガイドラインに留意していただくことを強くお勧めします。



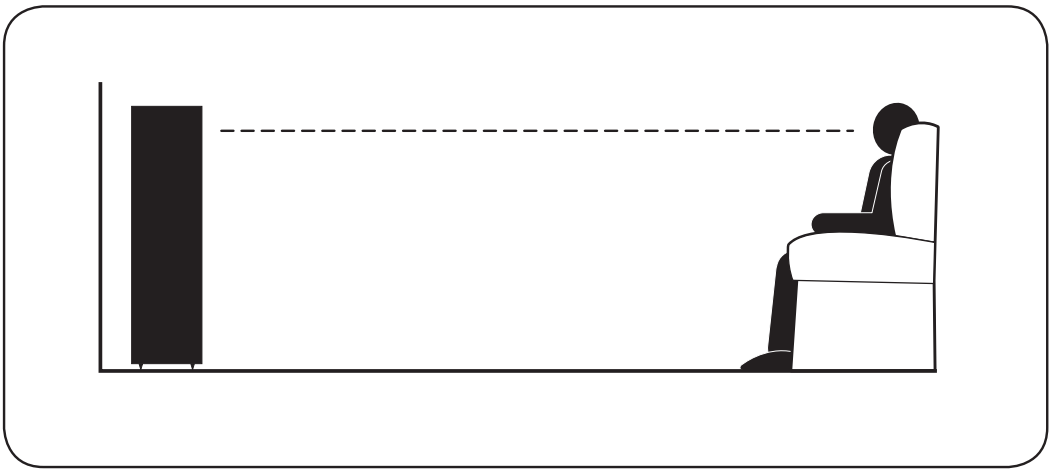
左右スピーカーの理想的な位置

スピーカーの配置：左右フロントスピーカー（続き）

正確な音色

正確で自然な音色を得るには、下図のようにフロントスピーカーの高域ドライバーがほぼ耳の高さになるように配置してください。

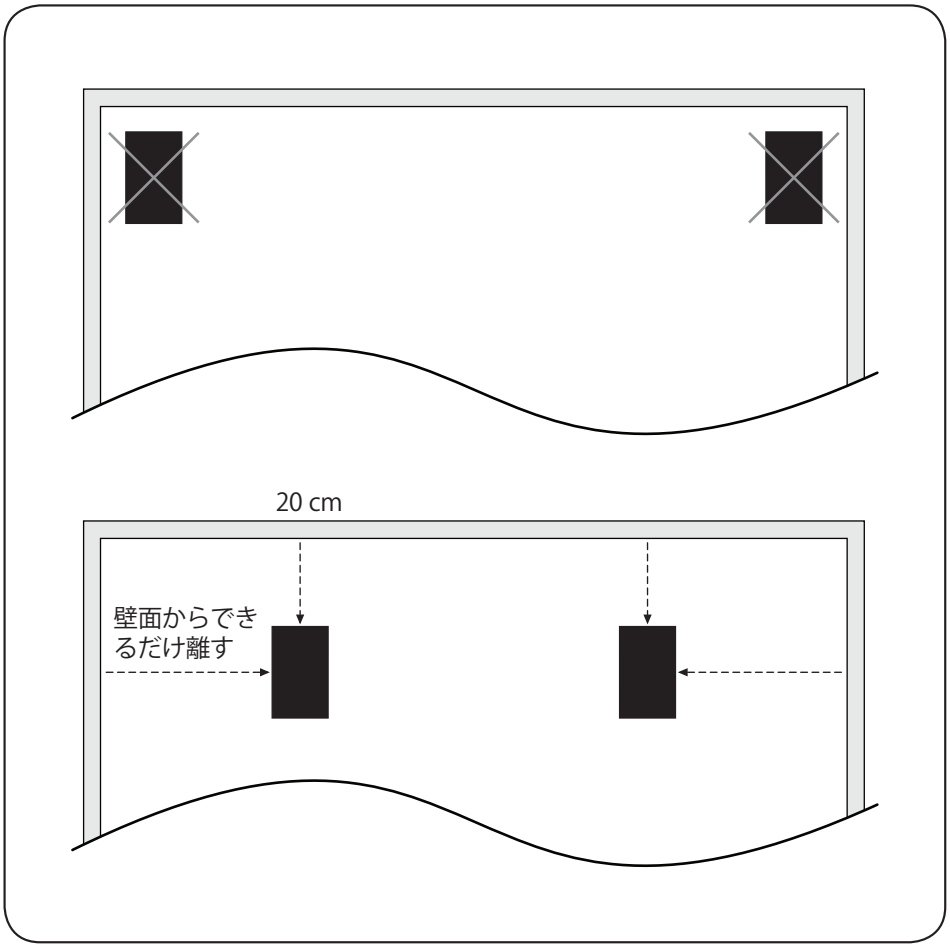
ブックシェルフモデルの場合も同様に、高域ドライバーが耳の高さになる位置に設置することで最高のパフォーマンスが得られます。



スピーカーの配置：左右フロントスピーカー（続き）

バランスのとれた低音

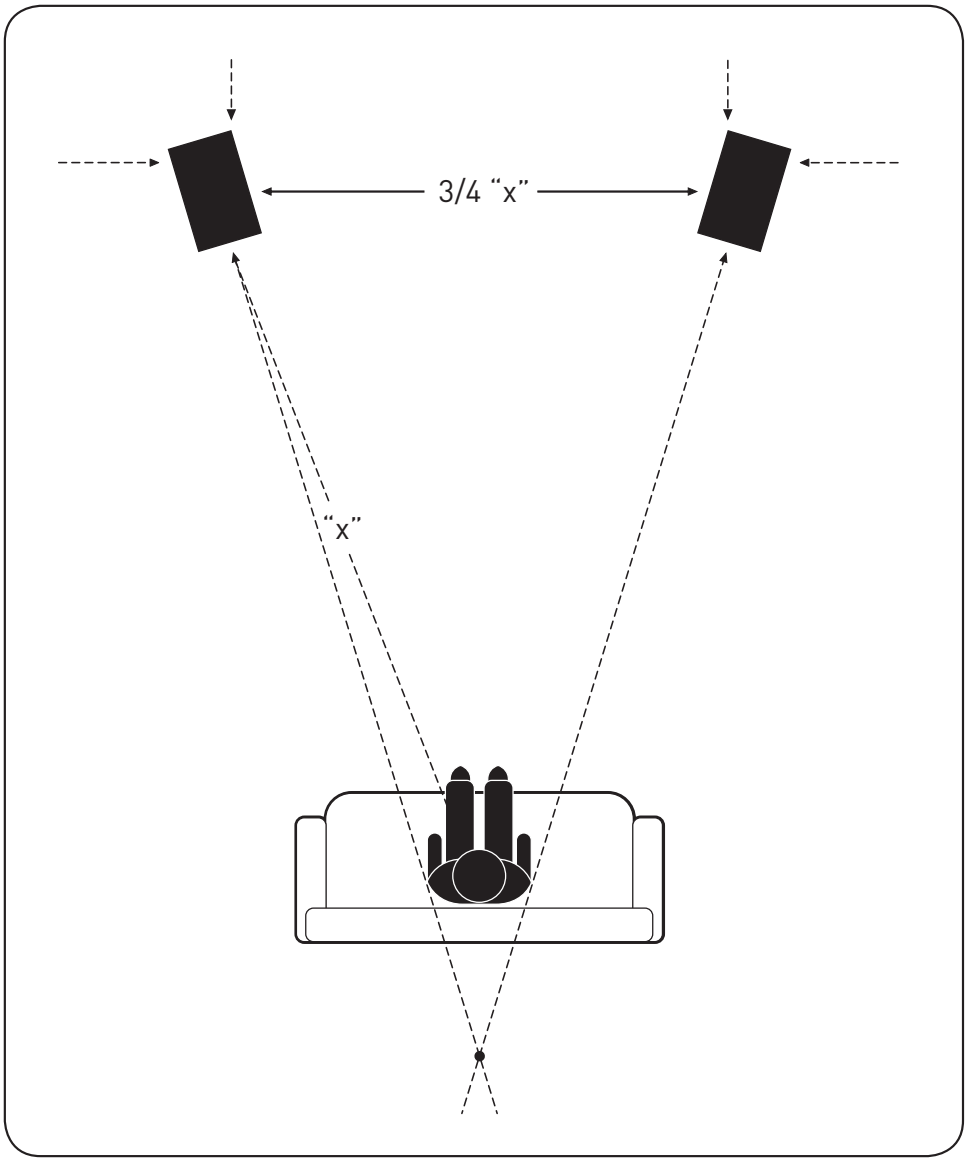
フロントスピーカーを部屋のコーナーに配置した場合、低音が強調されすぎて全体のクリアさが低下するため、コーナーへの配置は避けた方が無難です。下図で示したように、背面および側面の壁から少なくとも 20cm 以上は離して配置してください。これにより低音のパフォーマンスが改善し、最適な中域のクリアさを確保できるようになります。



スピーカーの配置：左右フロントスピーカー（続き）

最適な音像定位

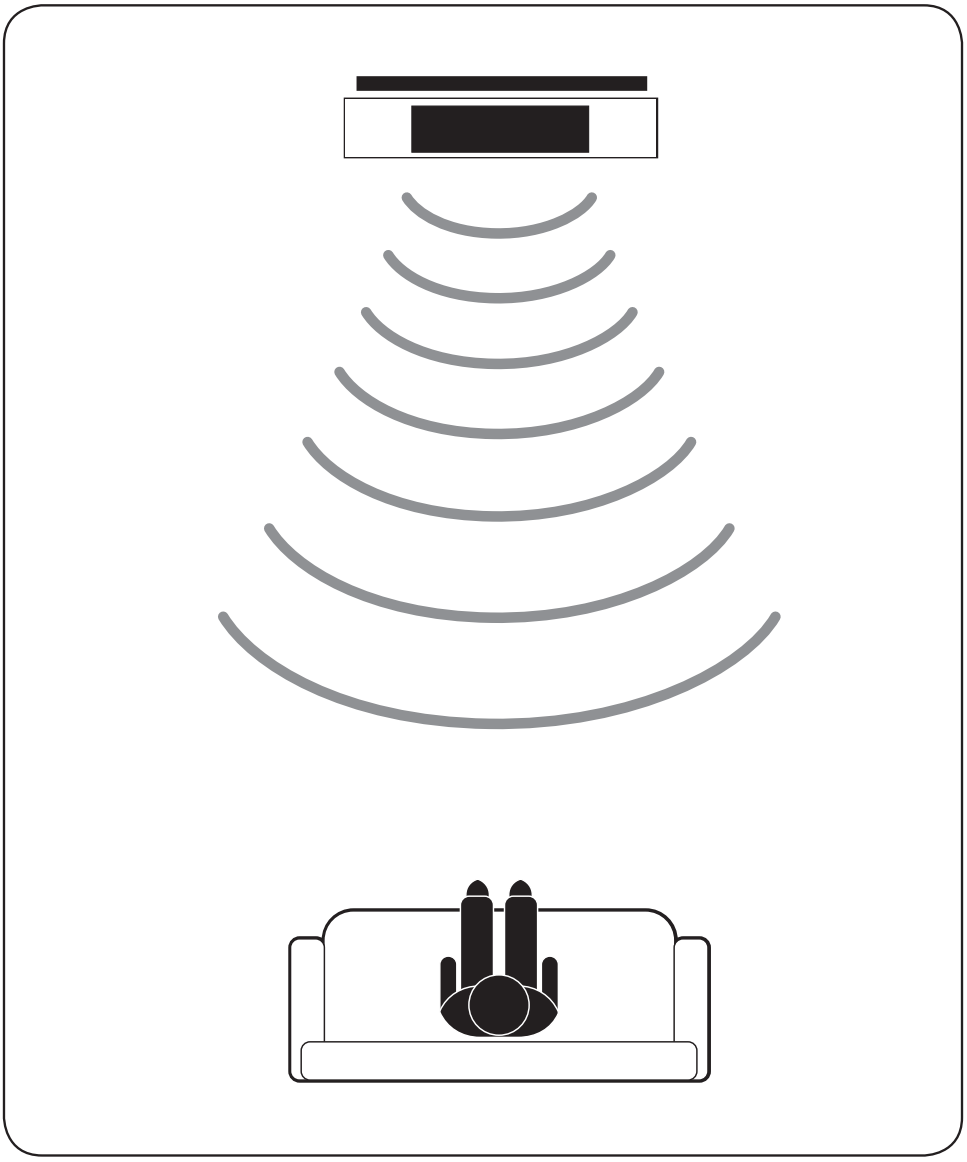
メインのリスニングエリアからフロントスピーカーまでの距離（「X」）を測定します。最高の音像定位を得るには、図のように左右のスピーカーを、測定した距離の 4 分の 3 から等距離（「X」の 3/4 ～「X」）の長さだけ離して配置してください。音像定位をさらに最適化したい場合、図のように、スピーカーをリスニング位置に向かってわずかに内振りし、左右スピーカーの中心線がリスニング位置の真後ろで交差するようにします。



スピーカーの配置：センタースピーカー

パラダイムのペルソナ C センターチャンネル・スピーカーは広いリスニングエリアをカバーするように設計されており、これまでにないクリアな音でセンターチャンネルの情報を室内全体に行き渡らせます。

センターチャンネル・スピーカーをテレビの下（または上）に配置することでクリアな音が得られます。不要な音の反射を最小限に抑えるため、テレビの前面またはスピーカー設置台の前面と同じ平面上にスピーカーを配置してください。また、メインのリスニング位置からフロントスピーカーまでの距離と同程度の距離を取ってください（一部の AV レシーバー / プロセッサーは、距離の違いを電子的に調整可能です）。



スピーカーの接続

重要：スピーカーの接続をする前にはアンプの電源を切ってください。これにより、スピーカーケーブルが事故でショートした場合に起こりうる損傷を防ぐことができます。

スピーカーケーブル / スピーカーワイヤー

スピーカーケーブルは、可能な限り良質のケーブルを使用されることをお勧めします。なぜなら、システム内で使用するスピーカーケーブルの種類および長さは、音楽再生の全体的な質に影響を及ぼすからです。ケーブルを選択する際には、#16 よりも太いケーブルを選ぶようにしてください。一般的に、使用するケーブルの長さが長いほど低いゲージの必要性が高くなり、低いゲージほど音はよくなります。

ヘビーゲージのケーブルよりも優れているとメーカーが主張するような標準的な太さのスピーカーケーブルは数多く出回っています。購入の際には、より太いゲージと以下に示す適正ゲージの両方を試してみて決めるのもいいかもしれません。

接続はスピーカー背面にある電子パネルの信号入力部で行います。この際、スペードプラグ（Y ラグ）を使うと、理想的なコンタクトで簡単に接続可能です。締めるときはスピーカー端子のネジを手で回しますが、締めすぎには注意してください。

ゲージの要件

長さ	直径	ゲージ
4.5m 未満	1.3mm	16AWG
9m 未満	1.6mm	14AWG
9m 以上	2.0mm	12AWG

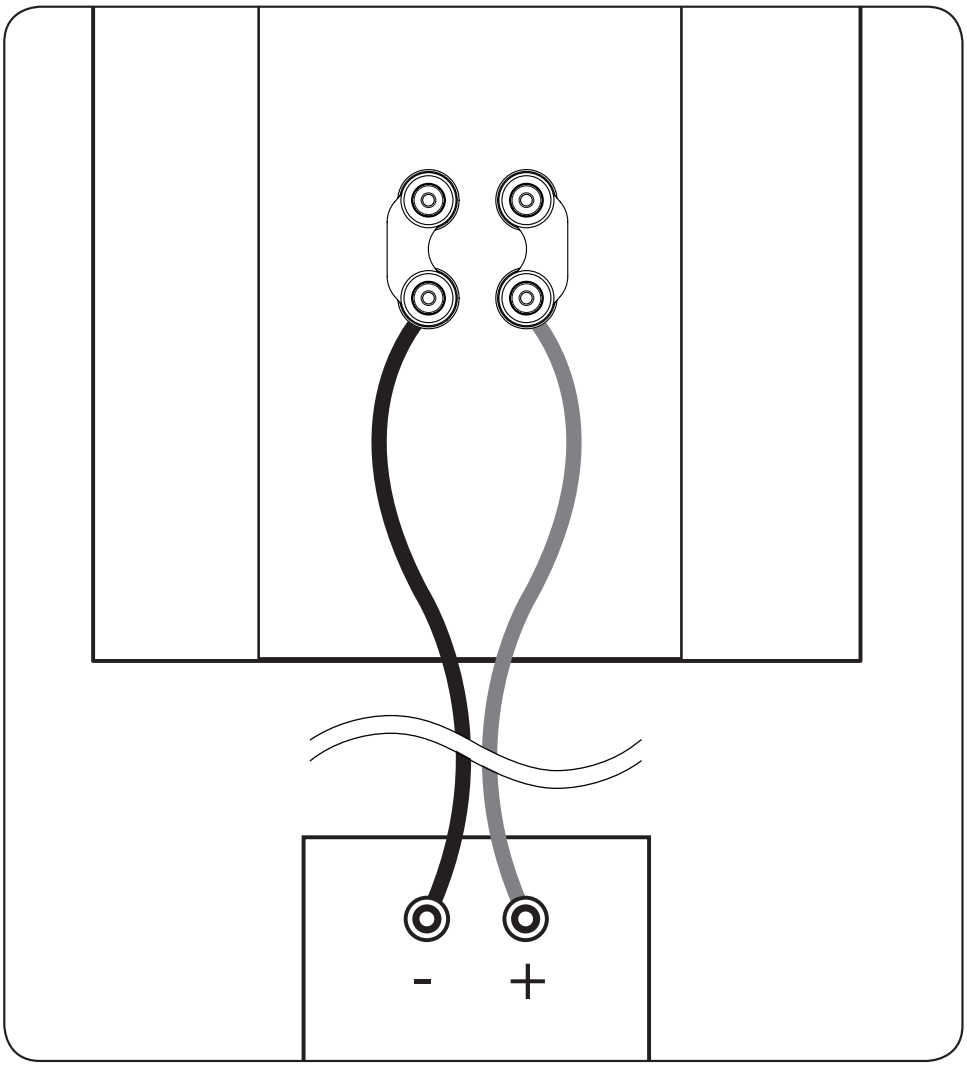
スピーカーの接続（続き）

すべてのスピーカーを対象とした標準的な接続

スピーカーにジャンパーピンを付けたままバイワイヤー接続、またはバイアンプ接続はしないでください。

パラダイムのペルソナシリーズのスピーカーには 2 系統の入力端子が装備されており、端子間にはジャンパーピンが付いています。この 2 系統の入力端子を使ってバイワイヤー接続またはバイアンプ接続することにより、さらに優れたパフォーマンスを発揮させることが可能です。

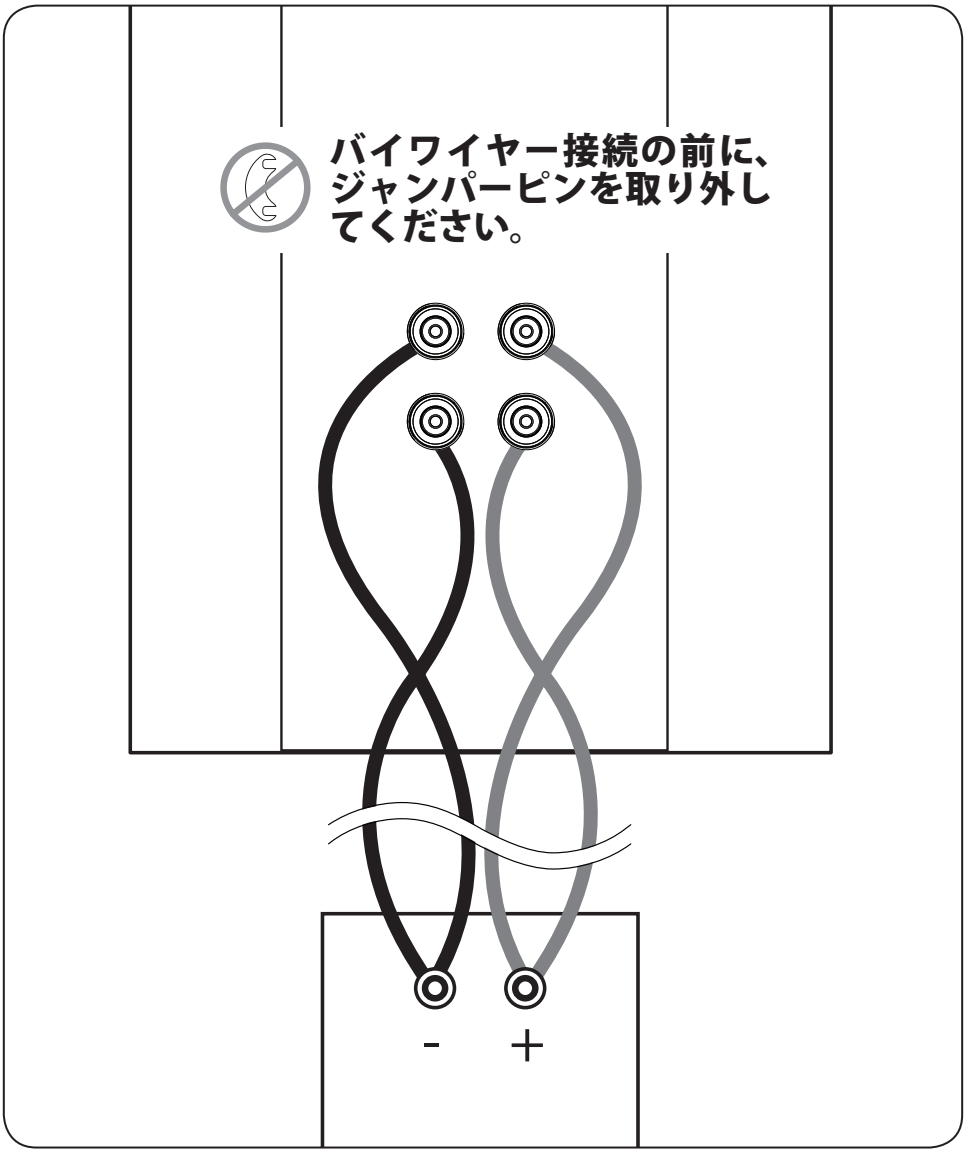
2 系統の入力端子があるスピーカーに標準的な接続をする場合、ジャンパーピンは取り付けたままにし、いずれかの系統の入力端子にケーブルを接続してください。



スピーカーの接続（続き）

バイワイヤー接続

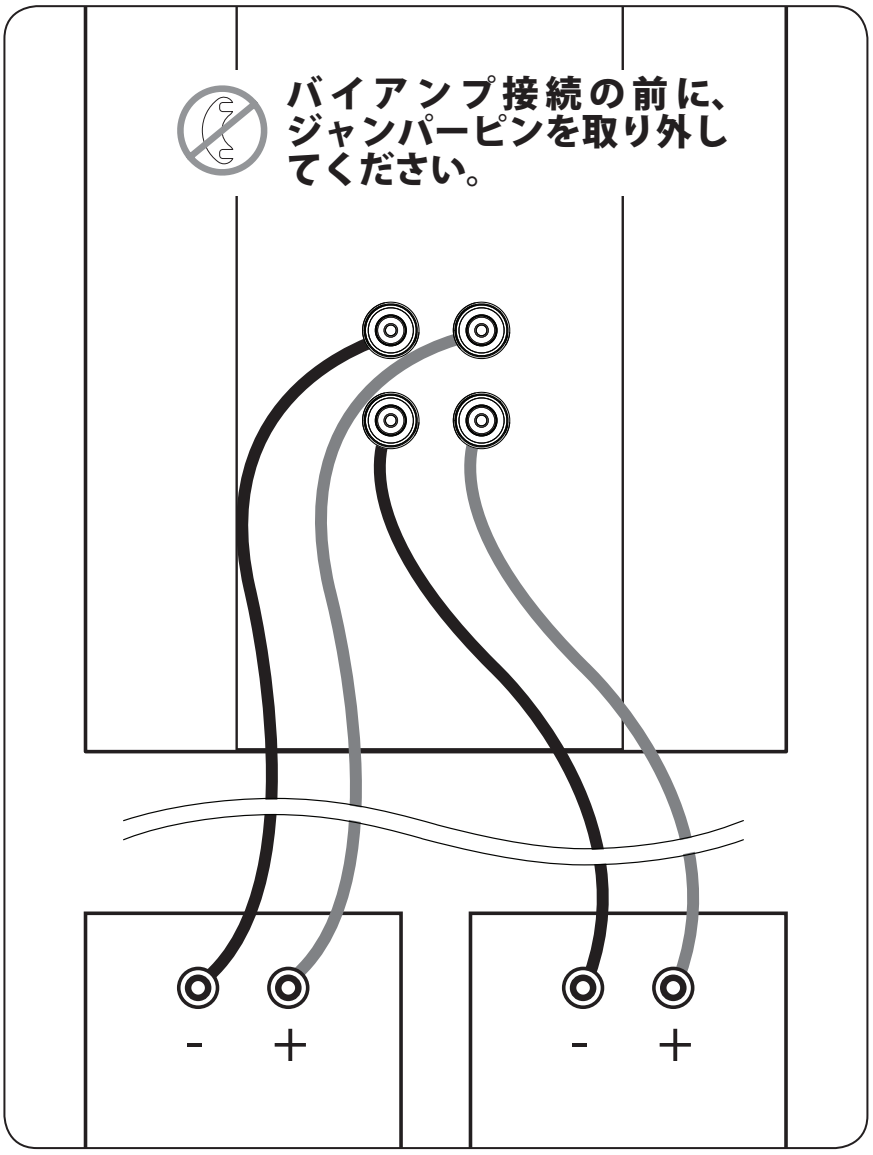
バイワイヤリングにすると低音の粗さが減って立体感が増し、クリアさと開放感が改善します。バイワイヤー接続をするには、それぞれのスピーカーに対してスピーカーケーブルが 2 本ずつ必要です。



スピーカーの接続（続き）

バイアンプ接続

重要:バイアンプで接続する際には、必ず同じゲインのアンプを使用してください。アンプのゲインが同一でない場合、バーチカルバイアンプ接続ではスピーカー間のバランスがおかしくなり、ホリゾンタルバイアンプ接続ではスピーカーシステムの周波数バランスが不正確になります。理想的なのは同一メーカーの同一モデルのアンプを使うことです。この際、ブリッジモードの使用・不使用の条件はそろえてください。



スピーカーの接続（続き）

パッシブバイアンプは音のクリアさ、開放感、ディテールを劇的に改善し、低音の立体感と解像度も向上させます。これにより音楽や映画のサウンドトラックが、より明瞭かつ高い透明度で再現されるようになります。

パッシブバイアンプでは、スピーカー内部のパッシブクロスオーバーネットワークは接続されたままなので、外部クロスオーバーは必要なく、また使用もできません（各ドライブユニットに対して電気信号はダイレクトに送られません）。費用と手間を軽減できる一方で、スピーカーは最高のハイエンドパフォーマンスを発揮できるよう最適化されます。

バイアンプにするには、2 台のパワーアンプが必要です。接続はバーチカルでもホリゾンタルでもかまいません。

ホリゾンタルバイアンプ接続

ホリゾンタルバイアンプ接続（前ページの図を参照）は、1 台のアンプを左右スピーカーの中 / 低域入力用に使用し、もう 1 台のアンプを高域入力用に使用する接続方法です。この構成にした場合、大音量で聴いた場合でもよりクリアな音を維持できます（低域の入力がアンプのクリッピングを引き起こす場合でも、歪みの影響は高域ドライバーには及ばないため）。接続の際には、アンプを 1 台ずつスピーカーにつなげてください。

バーチカルバイアンプ接続

バーチカルバイアンプ接続（図の表記なし）は、スピーカーごとに 1 台のアンプを割り当てる接続方法です。この構成にした場合、左右のチャンネルが完全に分離するため、システムの音像の定位が最適化されます。接続の際には、アンプを 1 台ずつスピーカーにつなげてください。

ペルソナ 9H ハイブリッド・スピーカー

6 つのドライバーを搭載したアクティブ・ベース・アコースティック・サスペンション方式の 3.5 ウェイ・ハイブリッド・フロアスタンド・スピーカー。

ペルソナ 9H は、パッシブな中高域セクションとパワードウーファーとの完璧なバランスを備えた真のフルレンジハイブリッドスピーカーです。

ペルソナ 9H が奏でる音は格別で、解像度の高い驚異的な低音とニュートラルで透明な中域を再現します。以下に記載のコントロール部では、アンビエント LED の光量を調整したり、ARC（アンセム・ルーム・コレクション）適用「前後」の状態を聞いたりすることが可能です。ARC ™とその操作に関する詳しい説明については、20 ページを参照してください。

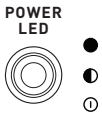
コントロール部

ARC - オン / オフ：

ARC 測定実行前の（オフ）と実行後の（オン）を切り替えます。注：ARC のデータがアップロードされていない場合、このボタンを押すと前面の LED が点滅します。もう一度ボタンを押すと（オフ）、点滅は止まります。

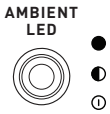
Sweep（スイープ）：

このボタンでは 3 つのモードを切り替えます。2 秒間押し続けるとスイープが始まり、その後ボタンを短く押すことでスイープが停止して、その時点の周波数が再生されます。さらに 2 秒間押し続けるとスイープはキャンセルされます。



Power LED（電源 LED）：

電源 LED スイッチで、スピーカー前面にある「P」を点灯させます。照度レベルを「暗く」する場合は、電源 LED を中央に切り替えてください。照明を完全に消す場合には、電源 LED を一番下に切り替えます。



Ambient LED（アンビエント LED）：

アンビエント LED スイッチは、スピーカー底面に青いイルミネーションを点灯させます。照度レベルを「暗く」する場合は、アンビエント LED を中央に切り替えてください。照明を完全に消す場合には、アンビエント LED を一番下に切り替えます。

USB：

ARC 測定で PC と接続する際に使用します。詳しくは 22 ページを参照してください。

ファインチューニング

パラダイムのペルソナスピーカーは多様な部屋の環境で卓越したハイエンドパフォーマンスを発揮するように設計されています。ファインチューニングをする際には、必要に応じてスピーカーの位置を微調整してください。

まずはフロントスピーカーから始めます。いつも聴いている音源をステレオで再生してみてください。そのままでも音場が広く奥行きも感じられると思いますが、スピーカーのトウイン（リスニングエリアに向かってスピーカーを内に振ること）を調整することで、さらにお好みに合わせた音場のチューニングが可能になります。トウインの角度を大きくすればするほど、音像の奥行きや定位が明確になり、トウインを浅くするほど音像が広がります。トウインの角度を少しずつ変え、そのたびに音源で確認しながらお好みのバランスを見つけてください。

システム内の他のスピーカーについては、その位置と音響分布が固定されているため、ファインチューニングにトウインは使用できません。

センターチャンネルのファインチューニングは、マルチチャンネル音源や映画に合わせてレベルを調整するだけです。必要に応じて、AV プロセッサーや AV レシーバーのレベルを調整し、破綻のない音場が形成されるように調整してください。

アンセム・ルーム・コレクション（ARC ™）– ペルソナ 9H のみ
部屋の問題に対する真の科学的ソリューション

アンセム・ルーム・コレクションテクノロジーは、部屋固有の特性に合わせてペルソナ 9H のパフォーマンスを素早く正確に最適化するための独自のデジタル信号処理システムです。

ARC で部屋の音響特性を測定することで、パフォーマンスの劣化につながる室内の様々な表面や障害物の悪影響（反射、反響、定在波など）を補正するよう機器を調整できます。

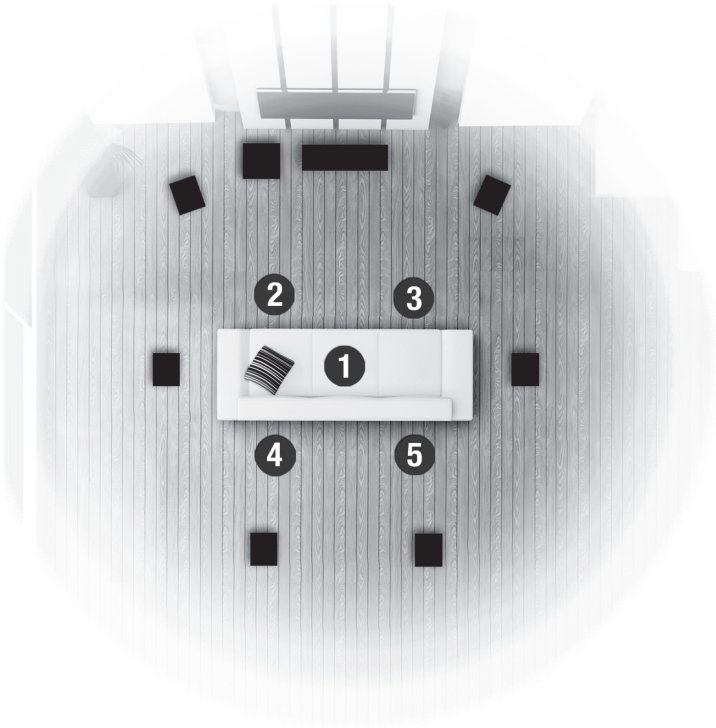
ARC は使いやすく、わずか数ステップでペルソナ 9H をリスニング空間に合わせてカスタマイズできます。非常に性能が高く、現時点において最も精密で正確なデジタルルーム補正技術といっても過言ではありません。また、今後に向けても開発が続けられており、アンセムのウェブサイトでアップデーターをダウンロードすることができます。

ARC が優れている理由

ARC は、リスニングルーム内の低音のレスポンスを分析して正しいイコライゼーションパラメーターを設定し、最適な音質を実現する**最先端のルーム・コレクションシステム**です。これによって低音の反応が改善し、音がよりシームレスでダイナミックに調和するようになります。

コンピューターを利用した ARC では、カスタムフィルタートポロジーに加えて超効率的な無限インパルス応答（IIR）フィルターを応用し、遅延を最小限に抑えて処理ノイズを低減します。この IIR とカスタムフィルターの独自の組み合わせをアーティファクトがすり抜けられたとしても、それは聴き取ることができないほどわずかなものでしょう。ARC はそれほど効果的なのです。

ARC では、複数のマイクで測定ができます。ほとんどのルームイコライザーは、メインのリスニング位置の単一点源で 1 回測定する形式です。しかし ARC では、メインのリスニング位置を始め、少なくともユーザーが任意に選択した 5 つの測定点（最大 10 地点まで測定可能）で室内のレスポンスを測定します。追加の測定位置については、最初の位置から最低 60cm の間隔を空けて対称に配置します（図を参照）。このマルチ測定プロセスにより、リスニングエリア全体で最適な低音のパフォーマンスを確保することが可能となるのです。



他のルームイコライザーシステムとは異なり、ARC はピーク（モード）とディップ（アンチモード）に補正を適用します。両方を補正することで、はるかに精度の高い自然な部屋のレスポンスを得ることが可能となります。ARC はこの補正に適切な制限を適用して、アンプへの要求を制限し SN 比を最大にします。

ARC は驚異の正確さを誇ります。コンピューターの 64 ビット浮動小数点プロセッサーで補正曲線を計算するため、性能の劣るルーム・コレクションシステムで一般的に見られる丸め誤差を最小にします。

ARC の手順

ルーム・コレクションの手順は以下の通りです。まずスピーカーからのテスト信号を ARC の調整用マイクで拾います。次にシステムが周波数スイープを実行して室内の潜在的な問題領域をハイライトし、必要な調整を決定します。ARC の測定がマイクでキャプチャーされ接続中の PC に保存されたら、ARC が最適なソリューションを計算し、そのデータをスピーカーへとアップロードします。低音レスポンスのバランスがとれ、よりリアルになった音の違いを実感してください。

アンセム・ルーム・コレクション（ARC ™）– ペルソナ 9H のみ（続き）

ARC の付属品：

ARC キットには以下のものが含まれています。

- マイクおよびマイククリップ
- 伸縮式スタンドおよびベース
- USB ケーブル× 2

マイクには、固有の出荷時設定校正ファイルがあります。お手元のマイク固有の校正ファイルについては **anthemav.com/arc** からダウンロードしてください。マイクは、マッチングされた固有の校正ファイルがないと使用できません。

始める前に

- 使用する ARC ソフトウェアとオーディオ機器に互換性があることを確認してください。最新のソフトウェアバージョンと機器の互換リストは、**anthemav.com/arc** で確認できます。
- ARC のマイクとその校正ファイルはペアとして機能します。ARC ソフトウェアでマイクを使用するには、その正確な応答性を知る必要があります。そのため、ARC マイクの周波数応答は出荷時に工場で正確に測定され、固有の校正ファイルが作成されています。お手元のマイク固有の校正ファイルについては **anthemav.com/arc** からダウンロードしてください。
- コンピューターの OS は Windows 7 以降を使用してください。ノートタイプの PC を使用している場合は、ARC のプロセスに中断が生じないように、電源設定とバッテリーの残量メーターを確認してください。
- ARC の音響測定プロセスでは一般的なバックグラウンドノイズは無視されますが、大きなノイズが生じたりするとプロセスが妨げられることがあります。その場合、再測定を求めるメッセージが表示されます。これを避けるため、測定中は室内が静かになるようにしてください。

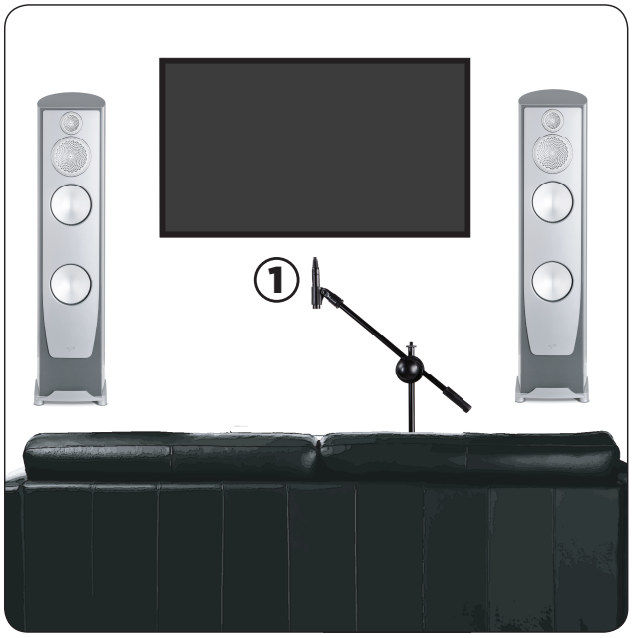
ARC ソフトウェアのインストール

- **anthemav.com/arc** から最新バージョンのソフトウェアをコンピューターのデスクトップにダウンロードします。
- ダウンロードした zip ファイルのフォルダを右クリックしてデスクトップに解凍します。
- 解凍したフォルダを開いて「Setup（セットアップ）」をダブルクリックします。
- 画面にソフトウェアのインストール手順が表示されます。
- スタートメニューを開いて ARC を実行します。

ARC のアップデートファイルをダウンロードする際は、新しいバージョンをインストールする前に既存のプログラムが起動していないことを確認してください。

アンセム・ルーム・コレクション（ARC ™）– ペルソナ 9H のみ（続き）

マイクの位置と接続



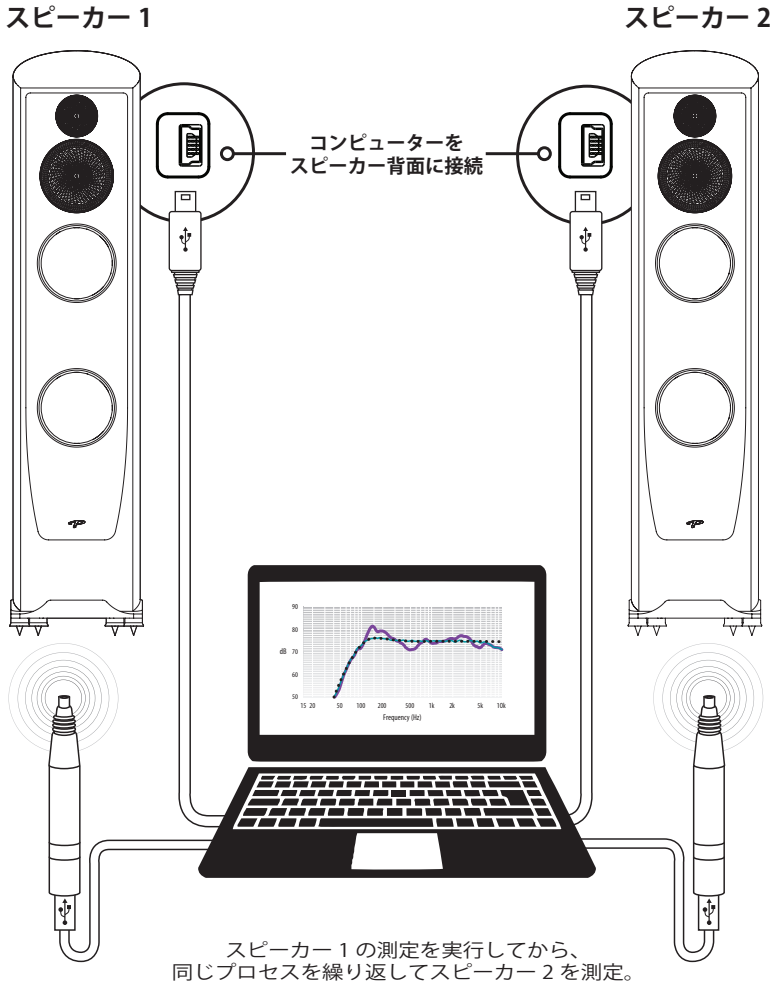
測定中はマイクを真上に向けてください。

測定を適切に実施するには、マイクの高さが非常に重要です。マイクは座ったときの耳の高さに配置し、さらにフロントスピーカーの高域ドライバーの高さと合うようにしてください。

マイクの位置が正しくないと音がぼやけたり明るくなったりすることがあります。そうなった場合は、マイクを座ったときの耳の高さと高域ドライバーの高さに再調整し、改めて ARC 測定を行なってください。

伸縮式スタンドのポールの長さを調整する際には、クランプを反時計回りに回して緩め、長さを調整したらクランプを時計回りに回してロックします。その後、マイクを最初の位置にセットします。スイープ音が鳴っているときにはマイクの近くに立たないでください。体からの反射によって測定に悪影響が及ぶ恐れがあります。

マイクとスピーカーをコンピューターに接続するには、付属の USB ケーブルを使います。



スピーカー 1 の測定を実行してから、
同じプロセスを繰り返してスピーカー 2 を測定。

アンセム・ルーム・コレクション（ARC ™）– ペルソナ 9H のみ（続き）

測定手順

最低でも 5 ヶ所のリスニング位置でオーディオレスポンスを測定することをお勧めします。部屋が大きい場合（12m × 12m 以上）、または変わった形をしている場合は、最大 10 ヶ所まで測定地点を増やすことができますが、必要以上に多くしても結果がよくなるわけではありません。

最初の位置：「メイン測定位置」は、中央の座る位置（「スイートスポット」）またはその手前に配置するようにしてください。この位置が、低音の音量レベルを設定するためのメインとなる測定位置です。

追加位置：追加の測定位置については、最初の位置 * から最低 60cm の間隔を空けて対称に配置します（図 A を参照）。

注：「メイン測定位置」が壁に接している場合、追加の測定位置は座るエリアの手前に配置してください。このとき、それぞれの測定位置を壁から 30 センチ以上離し、すべてが異なる距離になるようにしてください（図 B を参照）。

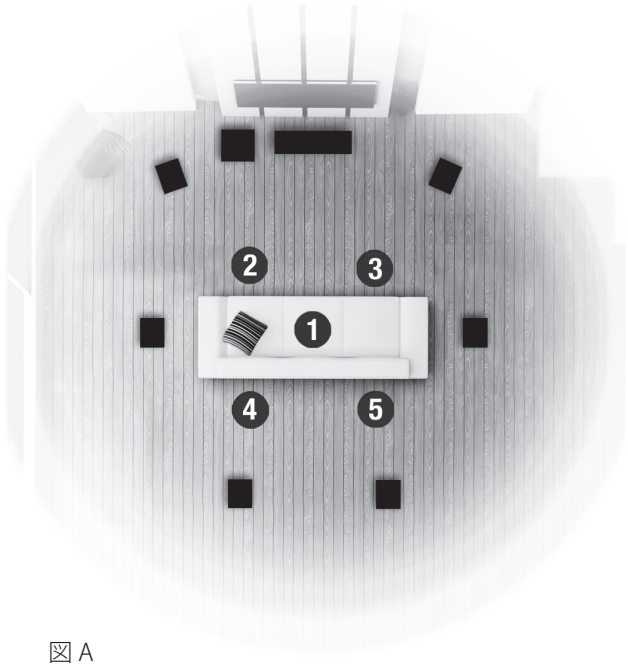


図 A

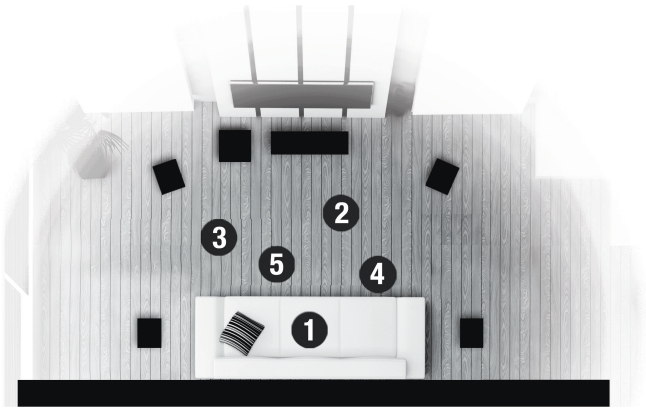


図 B

QUICK MEASURE スピーカー・ポジション・ヘルパー

スピーカーをある程度自由に配置できる場合は、ARC を実行する前に Quick Measure を試してみてください（別の方法として、すべての測定を行ったあとで、スピーカーの位置調整が必要かどうかの確認をすることもできます）。以下は Quick Measure の使用手順です。

- Quick Measure のアイコンをクリックします。
- Connect（接続）をクリックしてから、測定したい機器を選択します。
- 接続したら、Start（開始）をクリックして配置調整するスピーカーのスイープ音を有効にします。
- スイープ音が数回鳴った段階で、未補正の測定値の最新情報がグラフに表示されます。この表示は、スイープ音が止まるまで更新され続けます。
- スピーカーを室内で動かして、応答グラフが最もフラットになる位置を探します。
- グラフ、特に低域が最もフラットになる位置にスピーカーを設置し、Stop（停止）をクリックして Quick Measure のウィンドウを閉じてください。それから ARC を通常通りに起動します。

注：スピーカーが複数ある場合は、それぞれに同じプロセスを適用してください。

アンセム・ルーム・コレクション（ARC ™）– ペルソナ 9H のみ（続き）

ARC の基本的な測定手順

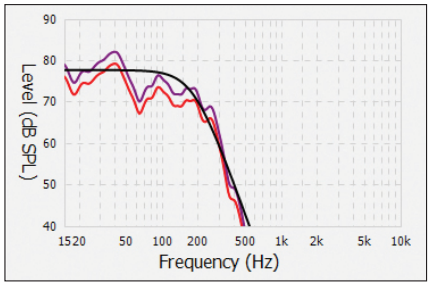
1. マイクを最初の位置である「メイン測定位置」に設置した状態で、マイクと測定対象の ARC 対応機器を USB ケーブルでコンピューターの USB ポートに接続します。
2. スタートメニューから ARC を選択して実行します。測定の手順はプログラムに従ってください。プロセスの最後で、ARC は自動的に部屋の補正データを機器にロードします。測定の回数にもよりますが、測定プロセスはおよそ 10 分で完了します。
3. 測定データに名前を付けてコンピューターに保存します。名前は最大 16 文字まで使用可能です。それ以上の文字を使用した場合は削除されます。使用できる文字は a-z、A-Z、0-9、「 」、「-」、「.」、「:」、「;」、「<」、「=」、「>」、「?」、「@」で、それ以外の文字は使用できません。
4. ARC のプログラムを終了したら、USB ケーブルを外します。マイクのセットは分解し、次回に備えて保管しておいてください。
5. スピーカー背面にある ARC ボタンを使用して、ARC の補正前と補正後を切り替えます。

- スピーカーの位置を変えた場合、新しい家具や音を反射する素材を部屋の中に入れた場合、またはリスニング位置を変えた場合などは、改めて測定し直してください。
- スピーカーが複数ある場合は、それぞれに同じプロセスを適用してください。

上級ユーザー向け機能

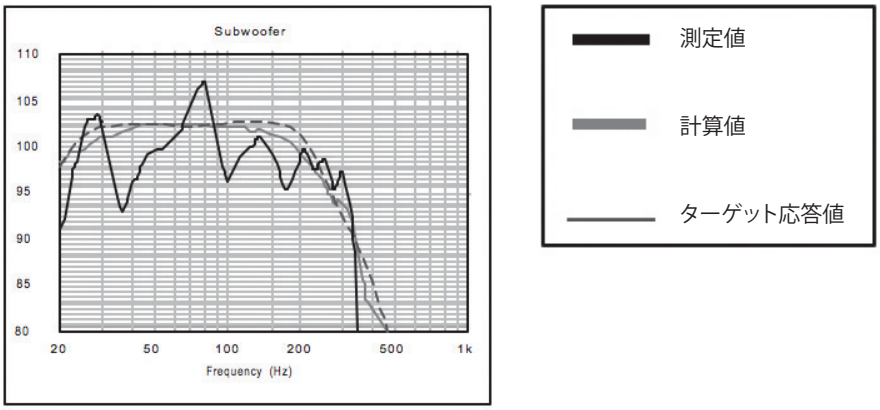
ARC の素晴らしい機能の 1 つが、部屋の応答曲線をカスタマイズするツールです。ただし、こちらは上級者向けのツールになります。

上級ユーザー向けの最新情報については、
anthemav.com/arc をご覧ください。



レポートの印刷

グラフやターゲット値を印刷するには、Print（印刷）をクリックします。



ARC 分析 / 補正例

基本的なトラブルシューティング

問題が発生した場合は、以下に挙げたトラブルシューティングを試してみてください。これらの方法で問題が解決しない場合、または対処方法が分からない場合は、カスタマーサポート に連絡してください。

カスタマーサポート

- ウェブサイト： **https://pdn.co.jp/contact.html**

警告：製品を開けないでください。いかなる状況においてもパラダイム正規取扱店以外の担当者が製品を修理することは認められておりません。万が一そのようなことがあった場合には保証が無効となります。詳細については、カスタマーサポートにお問い合わせください。

問題	解決策
音が出ない	• レシーバー、プリアンプ、パワーアンプが接続されており、電源が入っているか確認する。 • 壁面のコンセントに導通があるか確認する。 • ヘッドフォンが接続されていないか、またはミュートになっていないか確認する。 • すべての接続を再確認する。
一方、もしくは複数のスピーカーから音が出ない	• バランスコントロールを確認する。 • すべての電源ケーブルがしっかりと差し込まれ、不具合がないか確認する。
低音の不足、または音像定位が乱れる	• （1 本または複数の）スピーカーが逆位相で接続されている（極性が逆になっている）。 • 各スピーカーのケーブルが正しい極性（赤（+）から赤（+）、黒（-）から黒（-））で接続されていることを再確認する。

5 年間の保証期限

このマニュアルに記載されている Paradigm® Persona ™スピーカーは、最初の購入日から 5 年間、製造上および / または材料上の欠陥がないことを保証します。指定された期間内に製造上および / または材料上の欠陥が生じた場合には、最初の所有者に対して部品の修理、交換または調整が無料で行われるものとします。

誤使用による故障または損傷 は保証の対象外です。

制限事項：

- 保証の対象は、Paradigm® 正規取扱店で購入された製品のみであり、その適用は最初の購入日から始まります。保証の権利は譲渡できません。
- 保証は、家庭で通常利用される製品にのみ適用されます。製品が次の項に記載する条件のいずれかに当てはまる場合、保証は無効となります。
- 製品が業務用途または商業用途で使用される場合、保証は適用されません。

以下のいずれかに当てはまる場合、保証は無効になります。

- 製品が（故意または過失で）誤用された。
- 不適切な機器または故障した機器と組み合わせて使用された。
- 損傷を引き起こす信号にさらされた、輸送中に損傷を受けた、機械的に損傷した、または異常な状態にさらされた。
- 製品（キャビネットを含む）が、非正規の整備施設によって変更または損傷を受けた。
- シリアル番号が削除または改ざんされた。

所有者の責任：

- 標準的 / 合理的な取り扱いとメンテナンスを行う。
- サービスセンターへの製品の輸送費を負担する。
- 購入の証明書を提供する（購入時に Paradigm® 正規取扱店から発行された領収書は、購入日を証明するものとして保管する）。

修理が必要な場合は、お近くの Paradigm® 正規取扱店、または輸入代理店である株式会社 PDN に連絡して、故障品の発送の手配、持ち込み、あるいは元払いでの発送をしてください。詳しい情報については、PDN ウェブサイト **https://pdn.co.jp** を ご覧ください。

Paradigm Electronics Inc. は、以前に製造された製品を変更する義務を負うことなく、製品のデザインを改良する権利を留保します。

本保証は、商品性、特定目的への適合性について明示または暗示されているその他すべての保証に代わるものであり、誰によっても拡大することはできません。Paradigm Electronics Inc.、その代理店または販売代理店は、付随的または間接的な損害について一切の責任を負いません。司法管轄区によっては付随的または間接的損害の制限を認めていないため、この除外はお客様に適用されない場合があります。

保証期間および購入を証明するものとして、保証書と領収書を保管してください。

株式会社PDN
〒240-0005
神奈川県横浜市保土ケ谷区神戸町134番地
横浜ビジネスパーク　ノーススクエア I-4階